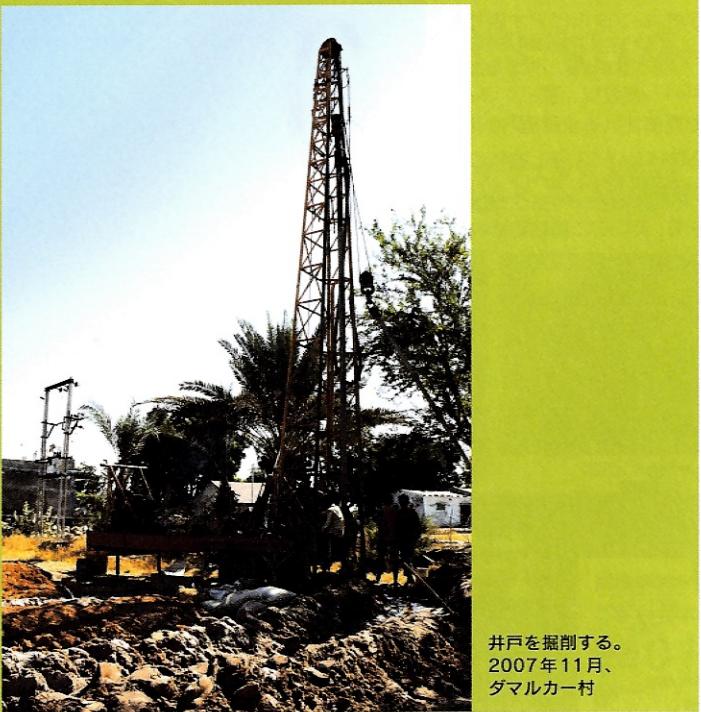




井戸水をタンクに溜めて
染色前に生地を洗う。
2006年9月、ダマルカ一村



更紗の染め上がりを確認する親方。
2007年2月、ダマルカ一村



井戸を掘削する。
2007年11月、
ダマルカ一村

問い合わせはフィールドから 生まれる

であつたが、復興援助金をえたおかげで、伝統染色の产地としての危機を脱することができたともいえる。

人びとが、移住の理由を水質変化だと言つたのは、わたしに嘘をついたわけではない。なぜなら、地震直後に水質が劇

わたしは、この10年来、豊かな染織の伝統をもつインド西部グジャラート州カツチ地方で、染色を生業とする職能集団の調査をしている。わたしが、更紗産地であるダマルカ一村を調査するようになつたのは、2000年に起きたインド西部地震がきっかけである。村は、震源地に近かつたため、家屋のほとんどが倒壊し、約1000人の人口のうち700数名の死者を出すという大きな被害をうけた。わたし自身は、援助金をダマルカ一村に送る手伝いをしたことから、この村

の復興について調査することになった。染色業者たちは、震災から一ヵ月後に染色業組合を作り、資金をとりまとめて土地を購入し、新しい村、アジュラクプール村の建設にとりかかった。そして政府やNGOと交渉し、復興開発援助をうけて、アジュラクプール村に家屋や工房などを建ててもらつた。住民がダマルカ一村を去ることにした理由は、染色用水の水質が変化し、染色に適さなくなつたものであつた。

ダマルカ一村では、染色した布を洗うために、井戸水を用いている。井戸水の化学成分を調べ、また井戸の所有と水利の形態と歴史について調べた。そこでわかつたことは、意外なことであつた。確かに水質は変化しているが、それは地震のせいではなく、地震以前から進行している、地下水の水位低下が原因であることがわかつたのである。

この村では、地下水を染色に用いるようになつたのは、一九九〇年中ごろからである。それまで村には川があり、その水を染色に用いていた。カツチ地方は、から五年を経たころから移住はすすまなかつただろう。しかし、地震の被災地には地震の被害があるものだという抜きがない先入観がわたし自身にあつたことが、村の移転の理由を見誤らせた最大の理由であろう。当初のフィールドノートを読み直すと、地震の前から地下水が減少して、地盤が陥没して、建物が倒壊する現象が頻繁に起つた。これは、地下水の水位低下によるものであつた。

また、震災被害の調査に来ている外国人に対して、震災の被害であることを強調して、援助に結びつけたいという期待もあつただろう。しかし、地震の被災地には乾燥気候に属している。雨期に地面に水が染み込んだ水が地中にたまり、それが地下水に数キロメートルのあいだ表出してきた。その川が干上がつてしまい、染色業者は農民から土地を買い取つて、その土地に井戸を掘削するようになった。水位が低下するにつれて、人びとは井戸を深く掘り、それが水質悪化を引き起こしてゐるだけではない。水の減少は、水の専門家にお願いして現地に同行してもらひ、一緒に調査をおこなつとした。



更紗产地が 移転した 本当の理由

金谷 美和 (かねに みわ)

本館外研員

水環境の変化

くなつた。アジュラクプール村には二軒の工房が移転したものの、ダマルカ一村には依然として五一軒の工房がとどまり稼働している。水が染色に適さないなら、仕事が続けられないはずなのに、なぜ移転はすすまないのか、本当に水質は悪化しているのだろうか、という疑問がフィールドワークのさなかに浮かんできた。

染色にとって水は重要であるにもかかわらず、水の調査はこれまでおこなわれてこなかつた。そこで、水の化学分析の専門家にお願いして現地に同行してもらひ、一緒に調査をおこなつとした。

個人所有を生み出した川の水を用いていたときには、染色用の水は共有資源であったが、各自が井戸を掘るようになると、水は個人所有の資源となつた。井戸を所有するには、土地を購入し、井戸を掘削するだけでなく、揚水するためのモーターと、それを動かすためのガソリンや電気が必要である。井戸をもたない人びとは、井戸の所有者に料金を払つて、水を使用している。水は、金のかかる資源になつたのである。井戸の所有者は、投資してえた水を枯れまで使い切りたいと考え、そのためにはアジュラクプール村への移住がすすまないのである。

しかしながら、アジュラクプール村では、水を組合の共有資源にして、個人で水を所有することを避けようという試みがなされている。地震は災厄としてあらたに調査をおこなう」とによつて、地震といふ災害を超えた、より大きな環境変化が現地に生じていることがわかつた。さらには、乾燥気候のなかで、水環境の変化に対応しつつ染色を続けてきた職能集団の技術そのものについて、より考察を広げる可能性が生まれたのである。問い合わせは常にフィールドから生まれるのである。